(7) 地域交流委員会

地域交流委員会では、「北東３地域本部技術士交流研修会」を担当している。

この研修会がスタートしたきっかけは、平成10年（１９９８）、当時の東北支部副支部長 根本清氏より地理的にも北国の共通点を持ち合う３支部が交流を深めることで、少しでもお互いの地域社会に貢献できるのではないかと、北陸支部長 中山輝也に持ち掛け賛同し、東北支部に申し入れて実現したことによる。

そして、初回の開催は東北支部の仙台市で、第２回目は北陸支部新潟市が引き受け、３回目は北海道支部が引き継ぎ札幌市で開催することが３支部長の間で確認された。以降各支部持ち回りで、平成23年（２０１１）からは、「北東３支部技術士研修会」から「北東３地域本部技術士交流研修会」に名称を改め、以降、令和元年（２０１９）の仙台市まで22回継続開催されてきた。これまでの研修会の概要は第５章第４節に紹介する。

委員会自体は平成23年（２０１１）の公益社団法人化による北陸本部内の組織拡充の一つとして新設されたものである。委員長以下６名で活動し、３年に一度の北陸開催の準備運営にかかわっている。

(8) 青年技術士交流委員会

青年技術士交流委員会は、平成10年（１９９８）12月に「青年技術士懇談会」として発足した記録がある。ただし翌平成11年（１９９９）７月に第１回懇談会が開催されており、これをもって正式な活動開始とする場合もある。記念すべき第１回目は、支部長 中山輝也による講演「ＡＰＥＣエンジニアの相互承認と技術士制度の改善点について」であった。当時、グローバル化の進展とともに技術士制度も国際的技術者資格制度との整合性が求められていた。講演後の質疑応答では、特に継続教育について活発な議論が交わされた。

平成16年（２００４）年5月教育広報委員会と事業委員会の下部組織として、「青年技術士委員会」に改称している。これは当初、北陸支部の「教育・広報委員会」と「事業委員会」の実行組織として活動することも目標のひとつに掲げていたためである。青年技術士委員会には、次世代を担う技術士をいかに育てるか、という技術士会全体の願いが込められている。教育・広報委員会や事業委員会のオブザーバが当初会議に参加していたのはこのためで、教育・広報委員長 佐藤直衛、事業委員長 小林武夫の支えが、その後の充実した企画の原動力となった。歴代委員長は次のとおりである。

平成11～15年度（１９９９～２００３）土橋佳代、平成16～19年度（２００４～２００７）堀田亨、平成20年度（２００８）齋藤真晴、平成21～22年度（２００９～２０１０）大塚直吉、平成23～26年度（２０１１～２０１４）坂東和郎、平成27～28年度（２０１５～２０１６）大高章、平成29～30年度（２０１７～２０１８）小酒欽弥、令和元年度～（２０１９～）高野康夫

特に当初5年間の代表を務めた土橋佳代の功績が大きく、北陸本部の40周年記念誌「ほくりくの技術士」には、「委員一人一人がそれぞれしっかりとした考えを持ち、役割を決める時も積極的に立候補する姿が印象的」との記述がある。発足当時からの気概あふれる若手技術士の姿勢は、現在も脈々と受け継がれている。

拡大青年委員会議及び見学会．福井駅前にて　※平成 28 年 6 月

青年技術士交流委員会は、月１回程度の頻度で開催する委員会であり、目標は、地域の科学技術に関する実践的な知識集団の一員として、日々進展する科学技術を、青年技術士という立場から各分野での業務等を通じて社会に具現化することで、持続的な地域の発展と人々の幸福に貢献する。

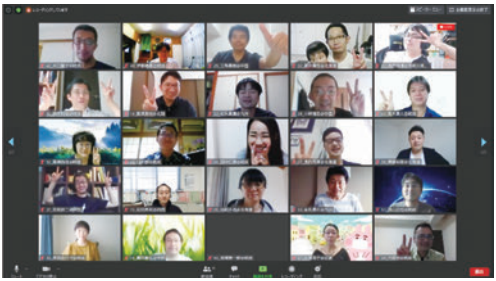
方針は、勉強会、現地学習会、講演会などを通して、若手技術者の技術力の向上と、それに伴う意識向上を常に心がけさせ、技術者全体の資質向上を図る。

また委員会は、定例行事の開催準備の場も兼ねる。定例行事は年２回行うことが慣例となっており、現在ではそれぞれ「秋の見学会」、「冬の講演会」として定着している。開催履歴を追うと、設立間もない当初期は手探りであったが、しだいに「くらし」や「地域」を軸にメインテーマを固めていく様子がわかる。

平成28年（２０１６）12月20日、委員会名称に「交流」が加わり、「青年技術士交流委員会」が正式名称となった。これは、全国の他地域本部との呼称統一を図ったものだが、単に名称を統一することだけを目的としたわけではない。一般に、組織の名称にはその役割が明示されている場合が多い（たとえば倫理委員会、防災委員会など）。今回の改称では、委員会名称に「交流」を追加し、①技術交流を通じて持続的な地域の発展や人々の幸福に貢献する、②技術者同士の交流によって全体の資質向上に資する、など、技術交流こそが私たちの活動の根幹であり、役割であることを明確にしたのである。

◇北陸本部の拡大青年技術士委員会議

拡大青年技術士委員会議は、県境を跨いだ交流を促進する目的で、年１回各県持ち回りで開催している。地理的・距離的に交流が制約される北陸の青年技術士



Zoom を用いた拡大青年技術士交流委員会議　※令和２年６月

にとって、県外メンバーとの交流を育める拡大委員会は、唯一無二の貴重な機会である。

会議では1年間の活動報告や今後の見通しについて議論し、続く技術発表会では各県の代表委員が、それぞれの普段の業務などをプレゼンテーション形式で紹介する。また2日目にはテクノツーリズムと称する視察・見学会が定例化しているが、各県の技術遺産や文化を学べるまたとない機会となっている。

拡大青年技術士交流委員会議

回／年	月／日	開催地・会場	内容	参加者
第1回 平成18年（2006）	6／17～18	金沢市、七尾市	①見学会 金沢市内、七尾市内	18
第2回 平成19年（2007）	6／23～24	坂井市、福井市	①見学会 三国見学、全国大会の「会場」視察 ②会議 全国大会「青年技術士の集い」準備会 ③福井見学	23
第3回 平成20年（2008）	6／14～15	富山市・岩瀬カナル会館	①会議 拡大運営委員会 ②見学会 岩瀬町並み、北前船回船問屋「森家」、薬種商の館『金岡邸』、ますの寿司本舗『源（みなもと）』工場	12
第4回 平成21年（2009）	9／12～13	長岡市、燕市、新潟市	①見学会 与板歴史民俗資料館、信濃川大河津資料館 ②会議 ③福島潟	13
第5回 平成22年（2010）	7／10～11	金沢市・しいのき迎賓館	①会議 ②見学会 金沢城公園、長町集真藍（あいしん）工房、金石・大野地区	18
第6回 平成23年（2011）	7／2～3	小浜市・公益財団法人 若狭湾エネルギー研究センター	①会議 ②見学会 若狭湾エネルギー研究センター、小浜市町並み、御食国若狭おばま食文化会館	29
第7回 平成24年（2012）	6／30～7／1	高岡市・ウィング ウィング高岡	①会議 第7回拡大青年技術士委員会議 ②見学会 国宝瑞龍寺、高岡市内歴史的町並み	28

回／年	月／日	開催地・会場	内容	参加者
第8回 平成25年（2013）	6／29～30	上越市・直江津学びの交流館	①会議　②技術発表会　③見学会 坂口記念館、岩の原ぶどう園	25
第9回 平成26年（2014）	6／21～22	金沢市・近江町交流プラザ	①会議　②技術発表会　③視察・見学会 金沢駅西広場、金沢レンタサイクルまちのり、サイエンスヒルズこまつ	33
第10回 平成27年（2015）	5／16～17	富山市・呉羽ハイツ	①会議　②全国大会候補地等視察 富山国際会議場、富山駅前、中島閘門、岩瀬の街並み	21
第11回 平成28年（2016）	6／18～19	福井市・福井繊協ビル	①福井駅西口中央地区再開発事業見学会　②技術発表会　③敦賀まちづくり見学会	20
第12回 平成29年（2017）	6／24～25	新潟市・技術士センタービル	①会議　SNSを活用したPR活動　②技術発表会　③下水熱および地中熱利用施設見学 興和ビル、新潟市役所、西川浄化センター	32
第13回 平成30年（2018）	6／30～7／1	金沢市・近江町交流プラザ	①会議　②技術発表会　③クリエイティブツーリズム ひがし茶屋街、主計町茶屋街周辺の工房	31
第14回 令和元年（2019）	6／29～30	福井市・福井県立歴史博物館研修室	①会議　②技術発表会　③意見交換会　④見学会 一乗谷ふるさとの川整備事業、朝倉氏遺跡	23

◇技術士全国大会（富山）の青年イベント

平成27年（2015）富山県で開催された技術士全国大会期間中の、10月3日の青年技術士の集い関連のイベントについて紹介する。

(1) 青年技術士交流会議

富山国際会議場201・202会議室において、統括本部青年技術士交流委員会主催の交流会議を開催した。

「ミニ全国大会招致合戦」と題し、各地域本部からの招致プレゼンを行った。81名の参加があった。

(2) 青年技術士の集い

青年技術士交流会議に引き続き、「いきたい、すみたい、はたらきたい 富山」をテーマとして青年技術士の集いを開催した。最初に地元から見た富山の「宝」をプレゼンし、次に、事前に参加者から回答いただいた富山のイメージアンケート結果を発表した。その後、参加者を9つのグループに分け、富山のキャッチコピーについてグループワークで考えた。各グループの考えたキャッチコピーについてはそれぞれ2分を持ち時間に発表し、参加者の投票により順位を決めた。

(3) テクノツーリズム

北陸新幹線の開業に合わせて改良された富山駅周辺の視察、重要文化財の中島閘門や岩瀬の町並みを散策した。79名の参加があった。

夕方から開始した大懇親会には73名の参加で盛り上がった。

技術士全国大会での青年イベント

回／年	月／日	開催地・会場	内容	参加者
第42回 平成27年（2015）	10／1	富山市・富山国際会議場	①青年技術士の集い テーマ いきたい、すみたい、はたらきたい〝富山〟 ②テクノツーリズム 富山駅前、中島閘門、岩瀬の街並み ③大懇親会	81
第43回 平成28年（2016）	11／13	横浜市・神奈川産業振興センター	①テクノツーリズム 横浜みなと博物館、横浜市浄水場 ②大懇親会 ③拡大委員会 ④青年技術士の集い	69 北陸 8

回／年	月／日	開催地・会場	内　容	参加者
第44回 平成29年（２０１７）	10／20	山口市・山口県健康づくりセンター他	①青年二次会　②第４分科会　ディベート企画分科会参加者によるディベート対決　③青年大懇親会　④テクノツーリズム山口の繁栄と衰退	71 北陸　7
第45回 平成30年（２０１８）	11／11	郡山市・ビックアイ他	①前夜祭　②研修会　ともに考える『ふくしま地域創生のための７つの挑戦』　③大懇親会　④テクニカルツアー　安積疏水（猪苗代湖周辺ほか）	40
第46回 令和元年（２０１９）	10／5	徳島市・あわぎんホール他	①前夜祭　②テクニカルツアー　第十堰、藍の館、講演　③大懇親会　④第４分科会　基調講演、グループワーク	北陸　6

◇特別イベント

地域本部の枠を超えた活動も精力的に行われている。各地域本部で実施される青年イベントや、統括本部主催の拡大運営委員会には、委員長だけでなく委員も積極的に参加するようになった。コロナ禍で延期となった、北陸本部青年技術士交流委員会設立20周年記念イベントにも、各地域本部からの積極的な参加を期待したい。

統括本部青年技術士交流委員会　拡大運営委員会

年	月／日	開催地・会場	内　容	参加者
平成29年（２０１７）	6／17	東京都・機械振興会館ほか	①統括・地域本部交流会議　②ビラコンテスト　③大懇親会　④テクノツーリズム　王子「紙の博物館」	70
平成30年（２０１８）	6／9～10	東京都・機械振興会館ほか	①拡大運営委員会　②本支部交流会議　③懇親会　④テクノツーリズム　千葉県立現代産業科学館　⑤懇親会	北陸　3
令和元年（２０１９）	6／15～16	東京都・機械振興会館ほか	①拡大運営委員会　②本支部交流会議　③意見交換会　④テクノツーリズム　江戸城近郊の遺構・土木・建築　⑤懇親会	北陸　5

他の地域本部主催青年技術士交流委員会

年	月／日	開催地・会場	内容	参加者
平成28年（2016）	5／20～21	名古屋市・ウインクあいち	中部青年技術士会30周年記念例会（愛知県）①テクノツーリズム リニモ車両基地ほか施設、あいち産業科学技術総合センター　②中部青年技術士会30周年記念例会 基調講演、パネルディスカッション	97
平成28年（2016）	6／11	仙台市・女川町まちなか交流館	東北本部 青年技術士交流実行委員会 ミニ全国大会（宮城県）①SNS復興セミナー　②青年の集い　③女川まちづくり現場見学　④復興現場見学 雄勝漁港、大川小学校、新北上大橋	51
令和元年（2019）	9／8～9	札幌市・TKPカンファレンスセンター	北海道本部青年技術士交流委員会30周年記念イベント（北海道）①歴代青年委員長の祝辞　②北海道歴史紹介　③北海道の今の取り組み　④各地域本部の活動紹介　⑤懇親会　⑥テクニカルツアー	72

青年技術士交流委員会懇談会・イベント

年	月／日	開催地・会場	テーマ・内容	参加者
平成11年（1999）	7／31	新潟市・技術士センタービル	APECエンジニアの相互承認と技術士制度の改善点について	50
平成11年（1999）	11／17	新潟市・信濃川ウォーターシャトル	信濃川ウォーターシャトル計画 アナスタシア、水の都新潟、水上交通、乗船場とアクセス	35
平成12年（2000）	7／1	新潟市・技術士センタービル	参加型パネルディスカッション 環境問題、水産業と有害物質、情報技術、都市の生態系	40

年	月／日	開催地・会場	テーマ・内容	参加者
平成12年（2000）	11／11	新潟市・技術士センタービル	21世紀を目前にひかえ、技術者に求められる視点は何か	52
平成13年（2001）	7／14	新潟市・技術士センタービル	「人間が今後生きていくための技術のあり方」循環型社会をめざした技術のあり方	58
平成13年（2001）	11／10	新潟市・技術士センタービル	実務経験を通じたケーススタディ　工作機械と環境対策、雪と環境、自然植生による河岸保護	23
平成15年（2003）	12／13	新潟市・技術士センタービル	朱鷺メッセ～新潟下町見学（後編）「新潟市の新旧を活かしたまちづくり」パネルディスカッション	31
平成18年（2006）	1／28	新潟市・技術士センタービル	青年が語る20年後の未来像～くらしを豊かにする技術の伝承～	31
平成22年（2010）	8／28～29	五泉市　新潟県スポーツ公園	関東支部と北陸支部のサッカー合同練習＆テクノツーリズム（五泉市）	23

青年技術士交流委員会企画　見学会・秋の見学会

年	月／日	開催地	テーマ・内容	参加者
平成14年（2002）	7／27	新津市	新津市内の堆肥工場とそれを利用した圃場見学及び新津地域学園研修室での懇談会	33
平成15年（2003）	9／20	新潟市	朱鷺メッセ～新潟下町見学（前編）、新潟の新旧の風景とまちづくり	37
平成16年（2004）	9／25	村上市	地域活性化への取り組み　村上の町屋めぐり～屏風まつり見学～、村上市郷土資料館見学	19

年	月／日	開催地	テーマ・内容	参加者
平成17年（2005）	9／10	柏崎市	旧高柳町荻ノ島地区環状かやぶき集落、東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所	20
平成18年（2006）	6／17～18	金沢市・七尾市	1日目金沢市内見学 金沢21世紀美術館、東山茶屋街、近江町市場等、2日目七尾市内見学 能登島能登カフェ、七尾市御祓川	18
平成18年（2006）	7／22	新発田市	暮らしと再生技術、新発田城、片山食品（ニンニク工場）、日本アクシィーズ東港工場（産業廃棄物・リサイクル事業）	24
平成19年（2007）	6／23～24	福井市	1日目「三国見学、全国大会の「会場」視察、全国大会「青年技術士の集い」準備会」、2日目「福井見学」	23
平成19年（2007）	11／17	新潟市	新潟の暮らしを支える自然の恵みとエネルギー ビュー福島潟、東新潟火力発電所、市島酒造株式会社	17
平成20年（2008）	11／21	新潟市・新発田市	企業見学会 ナミックス株式会社（絶縁材料・導電材料）新研究所テクノコア及び本社工場見学	22
平成21年（2009）	9／26	燕市・三条市	地域の活力・底力～燕三条地域の地場産業～磨き屋一番館（金属研磨）、燕市産業史料館、株式会社曙産業（マジックしゃもじ）	20
平成22年（2010）	10／2	聖籠町	地域の活力・底力～新潟東港地域における生産と港湾機能～ 佐藤食品工業株式会社、東港工場、新潟東港	18
平成23年（2011）	10／1	阿賀野市・阿賀町	地域の活力・底力～再生可能エネルギーの将来展望～東部太陽光発電所、東北電力豊実発電所	21
平成24年（2012）	10／6	燕市・三条市	地域の活力・底力～金物のまち三条から世界へ～燕三条地場産業振興センター、株式会社 スノーピーク本社、株式会社諏訪田製作所	18
平成25年（2013）	11／1	新潟市	地域の活力・底力～地域を支える交通機関～新潟空港バックヤード、JR東日本新潟駅付近高架化工事現場	20

年	月／日	開催地	テーマ・内容	参加者
平成26年（２０１４）	10／31	新潟市	地域のエネルギー 天然ガス～持続可能な開発～山の下閘門排水機場、環境省山の下地盤沈下観測井群、株式会社東邦アーステック	33
平成28年（２０１６）	10／21	新発田市	地域の活力・底力～新しい日本酒文化の発信～菊水酒造株式会社 酒造りの工程とふなぐち菊水一番搾り、日本酒文化研究所のこと	24
平成29年（２０１７）	9／29	新潟市・長岡市	情報システムと危機管理対策、高速道路管制センター（新潟亀田ＩＣ）、ＮＳコンピュータサービスデータセンター	22
平成30年（２０１８）	11／2	新潟市	新潟の文化を醸成・発信し、感動を支える舞台裏の技術、新潟市民芸術文化会館、テレビ新潟放送網	22
令和元年（２０１９）	11／1	新発田市	新潟の農業を支える農業水利施設 松岡ため池、加治川右岸頭首工、内の倉ダム・発電所	28

青年技術士交流委員会企画　講演会・冬の講演会

年	月／日	開催地・会場	テーマ・内容	参加者
平成15年（２００３）	1／18	新潟市・技術士センタービル	素材へのこだわり、味づくりへの信念、お客様への想い（加島屋のサケと食）	55
平成18年（２００６）	12／16	新潟市・技術士センタービル	青年が語る近未来への夢～時間・空間へ挑戦する技術～	37
平成20年（２００８）	4／26	新潟市・技術士センタービル	政令指定都市新潟市の暮らしと未来	26
平成22年（２０１０）	1／30	新潟市・技術士センタービル	磨きのプロ集団、地域の恵みを活かす自然農業	27

年	月／日	開催地・会場	テーマ・内容	参加者
平成22年（2010）	12／18	新潟市・技術士センタービル	地域防災を考える（雪害・水害）	19
平成23年（2011）	2／19	新潟市・技術士センタービル	環境と地域活力（電気自動車、CO2削減）	44
平成24年（2012）	1／21	新潟市・技術士センタービル	震災と復興	28
平成25年（2013）	1／19	新潟市・技術士センタービル	環境とエネルギー	48
平成26年（2014）	2／15	新潟市・技術士センタービル	働きやすい職場環境とは～ライフワークバランス～	39
平成27年（2015）	1／31	新潟市・技術士センタービル	地域ブランド	37
平成28年（2016）	2／13	新潟市・技術士センタービル	新潟市の地域・人・交通の未来について	46
平成29年（2017）	2／11	新潟市・技術士センタービル	新潟の新しいお米「新之助」	29
平成30年（2018）	2／10	新潟市・技術士センタービル	活力を生む経営企画・イベント・製品への取り組み方	16
平成31年（2019）	1／25	新潟市・駅南貸会議室KENTO RoomA	農業イノベーションと地域の取組	23
令和2年（2020）	1／31	糸魚川市・ヒスイ王国館	糸魚川市駅北大火からの復興の取り組み	19

◇新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会

建設関連産業に携わる若者や女性の「就職数減少」や「離職」といった現象が大きな課題となっている中、青年技術士交流委員会では同小委員会を組織し、学生・若者・女性に向け、建設関連産業の重要性や素晴らしさをＰＲして行く活動を行っている。

マンパワーアップ小委員会は平成28年（２０１６）に発足した。メンバーには技術士のみならず地元官公庁、建設コンサルタント、ゼネコン、そして教育機関といった異なる立場の技術者が集い、委員長の新潟大学工学部准教授 大竹雄氏を中心に多面的な企画を考案・実施してきた。持続的な活動が功を奏し、令和元年（２０１９）からは他組織である新潟県建設業協会青年部やＭＥ新潟の会などと連携するに至っている。

女性・若手で考える建設関連産業の未来の集い．新潟日報メディアシップにて
※令和元年 11 月

新潟県建設関連産業若手マンパワーアップ小委員会「にいがた・土木てんこもりツアー」　※令和元年９月

女性・若手で考える「建設関連産業の未来」の集い（新潟県）（若手マンパワーアップ小委員会）

年	月／日	開催地・会場	内容	参加者
平成29年（2017）	3／4	新潟市・技術士センタービルⅠ	若手が創る新しい業界のカタチ「土木の未来を考える」 ①講演・土木の未来・将来、本格的なi-Constructionへの転換～・建築・土木の未来のカタチ・i-Construction、若手が支える地域インフラの維持管理（ME新潟の取り組みと今後の展開） ②交流会	82
平成29年（2017）	10／3	新潟市・新潟日報メディアシップ	女性・若手で考える「建設関連産業の未来」の集い ①講演 僕らが描く建設産業の未来像 ②発表 建設関連産業について～それぞれの視点から～ ③パネルディスカッション 建設関連産業での女性・若手が活躍するためのロードマップ ④活動紹介 交流ホームページ、フェイスブックの紹介 ⑤交流会	79
平成30年（2018）	10／30	新潟市・西港周辺施設	新潟港開港150周年記念 インフラツーリズム ①見学会・新潟市歴史博物館みなとぴあ・新潟港湾技術調査事務所水理実験場・新潟港湾空港整備事務所・水産2号岸壁改良工事・ウォーターシャトルミニクルーズ港湾施設見学・山の下閘門排水機場 ②意見交換会 ③交流会	49
令和元年（2019）	1／18	新潟市・プラスサード	女性・若手で考える「建設関連産業の未来」の集い2018 ①基調講演 誰もが活躍できる建設関連産業 ②フリーディスカッション 本当に女性・若手も活躍できるのか?～それぞれの視点から～ ③交流会	125
令和元年（2019）	9／20	新潟市・水辺キャンピングオフィス	にいがた・土木てんこもりツアー2019 オフィス・現場・ミズベリング！ ①各業種の紹介と現場視察「やすらぎ堤護岸工事」 ②業種に分かれての座談会 「水辺キャンピングオフィス」 ③交流会	52
令和元年（2019）	11／7	新潟市・新潟日報メディアシップ	女性・若手で考える「建設関連産業の未来」の集い2019 ①基調講演・変化する社会と建設業 ②パネルディスカッション 建設業界で改革を進める女性・若手トップリーダーと一緒に考える ③交流会	105